

令和7年度 新潟市バイオリサーチセンター利用状況報告書（概要版）

令和8年4月30日

【室別利用数・率】

	利用月数	利用率（％）
共同利用研究室－1	12ヶ月	100%
共同利用研究室－2	12ヶ月	100%
共同利用研究室－3	12ヶ月	100%
共同利用研究室－4	12ヶ月	100%
共同利用研究室－5	12ヶ月	100%
共同利用研究室－6	12ヶ月	100%
共同利用研究室－7	12ヶ月	100%
共同利用研究室－8	12ヶ月	100%
共同利用研究室－9	12ヶ月	100%
共同利用研究室－10	12ヶ月	100%
共同利用研究室－11	10ヶ月	83%
研究・実験室－1	12ヶ月	100%
研究・実験室－2	12ヶ月	100%
研究・実験室－3	12ヶ月	100%
研究・実験室－4	12ヶ月	100%
分析測定室－1	12ヶ月	100%
分析測定室－2	12ヶ月	100%

【月別利用数・率】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用室数	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	17	17
利用率（％）	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	94%	94%	100%	100%

令和7年度 収納事務実施報告書

■ 利用者別料金（減免）内訳表

部屋名	利用期間	月額(A)	利用月数	利用料計	減免適用期間 (B)	減免割合 (C)	減免月数	減免額 (D) (A) × (B) × (C)	利用料収入額 (A) − (D)
共同利用研究室- 1	R7.4.1～R8.3.31	246,600	12ヶ月	2,959,200	12ヶ月	30%	12ヶ月	887,760	2,071,440
共同利用研究室- 2	R7.4.1～R8.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
共同利用研究室- 3	R7.4.1～R8.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
共同利用研究室- 4	R7.4.1～R8.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	12ヶ月	30%	12ヶ月	221,040	515,760
共同利用研究室- 5	R7.4.1～R8.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	736,800
共同利用研究室- 6	R7.4.1～R8.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
共同利用研究室- 7	R7.4.1～R8.3.31	64,200	12ヶ月	770,400	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	770,400
共同利用研究室- 8	R7.4.1～R8.3.31	53,800	12ヶ月	645,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	645,600
共同利用研究室- 9	R7.4.1～R8.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	736,800
共同利用研究室-10	R7.4.1～R8.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
共同利用研究室-11	R7.4.1～R7.11.30 R8.2.1～R8.3.31	58,000	10ヶ月	580,000	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	580,000
研究・実験室- 1	R7.4.1～R8.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	12ヶ月	30%	12ヶ月	221,040	515,760
研究・実験室- 2	R7.4.1～R8.3.31	61,400	12ヶ月	736,800	12ヶ月	30%	12ヶ月	221,040	515,760
研究・実験室- 3	R7.4.1～R8.3.31	33,800	12ヶ月	405,600	12ヶ月	30%	12ヶ月	121,680	283,920
研究・実験室- 4	R7.4.1～R8.3.31	22,400	12ヶ月	268,800	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	268,800
分析・測定室- 1	R7.4.1～R8.3.31	56,800	12ヶ月	681,600	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	681,600
分析・測定室- 2	R7.4.1～R8.3.31	46,600	12ヶ月	559,200	0ヶ月	0%	0ヶ月	0	559,200
合計				13,280,800				1,672,560	11,608,240

令和7年度 設備管理業務（定期作業）報告書

業務名		基準周期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
防災設備管理業務	自動火災報知設備	1回／6ヶ月				○						○		
	防排煙制御設備	1回／6ヶ月				○						○		
	誘導灯及び誘導標識	1回／6ヶ月				○						○		
	ガス漏れ火災警報設備	1回／6ヶ月				○						○		
	消火器	1回／6ヶ月				○						○		
電気設備		6回／年		○		○		○		○		○		○
清掃管理業務	定期清掃	1週1回	4	4	4	5	4	5	4	4	5	4	4	5
	廃棄物収集運搬処理	1週1回	4	4	4	5	4	5	4	4	5	4	4	5
	床ワックス清掃/カーペット清掃/PS清掃	1回／年					○							
環境衛生管理	施設点検管理	1回／月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	飲料水水質検査	1回／年								○				
	受水槽清掃/屋上加湿補給槽清掃	1回／年								○				
設備機器保守管理業務	給水、排水系統及び衛生器具等保守点検	1回／月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	湯沸器等の点検	1回／月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	湧水ピット点検	1回／年							○					
昇降機保守点検業務		1回／3月			○			○			○			○
自動ドア保守点検業務		2回／年				○						○		
その他作業	除草・植栽作業	2回／年				○			○					
	非常階段清掃/屋上清掃	年1回				○								
	窓ガラス清掃	年1回												○
	換気扇清掃	年1回				○								
	消防訓練	年1回							○					

※ 作業を実施した月に「○」、臨時点検は「△」、同一月に複数回の場合は「回数」

総括・評価

定例作業：

令和7年度設備管理業務（定期作業）を委託した業者は、前年度より引き続き委託した業者で占めており、点検等の作業もスムーズに行われ、全体の作業内容や実施状況は良好でした。

令和7年度 清掃業務（定期作業）報告書

部屋名等	作業名	基準周期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ポーチ	洗浄樹脂作業	1回／年					○							
風除室	洗浄樹脂作業	1回／年					○							
通用口	洗浄樹脂作業	1回／年					○							
廊下・階段（1階～3階）	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
男子トイレ（1階・3階）	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
女子トイレ（1階・2階）	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
湯沸しユニット（2階・3階）	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－1	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							
共同利用研究室－2	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－3	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－4	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－5	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							
共同利用研究室－6	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							
共同利用研究室－7	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							
共同利用研究室－8	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－9	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－10	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
共同利用研究室－11	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
研究・実験室－1	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
研究・実験室－2	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
研究・実験室－3	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
研究・実験室－4	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
分析測定室－1	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
分析測定室－2	床面ワックス等塗布	1回／年					○							
事務室・会議室	カーペット洗剤洗浄	1回／年					○							

※ 作業を実施した月に「○」

総括・評価
今年度は、年に1回の床ワックス清掃カーペット洗剤洗浄を行いました。前年度同様、床に薬品のシミが残るといこともなく比較的綺麗に使用されていると思われます。全体の作業内容や実施状況は良好でした。

産学連携コーディネート事業報告書

事業名 新潟バイオリサーチパーク株式会社

<実施状況>

1.食品会社や研究機関のからの相談、研究者・専門家探索コンサルティング件数

以下対応件数 58 件

機能性評価試験・臨床試験相談	13 件
機能性食品・商品開発相談	12 件
食品分析・技術相談	10 件
産学連携・共同研究支援	9 件
企業・研究者マッチング	5 件
センターPR・入居促進活動	4 件
情報提供・情報交換	5 件

2.自主事業の活動の中での、新潟市バイオリサーチセンターの PR 活動

営業先には、当社パンフレット（会社案内）及びホームページを活用し、新潟市バイオリサーチセンターの施設概要や研究支援機能について情報発信を行いました。

また、健康ビジネス協議会のセミナー、新潟県主催フードテックのセミナー等において、センターの空室情報の周知や新潟薬科大学研究者の紹介を行い、産学連携及び共同研究促進に向けた PR 活動を実施しました。

3.令和 7 年度事業計画の活動について（年度当当初の目標と実績）

【具体的な取り組みとして】

①重要業績評価指標として、大学研究機関や食品会社との連携支援や相談等の対応件数を年間 50 件以上行う。

今年度の対応件数としては、58 件でした。

②センター利用者からの技術的相談に対し、新潟薬科大学をはじめとする地域の大学研究者や、（一財）日本食品分析センターなど対応できる専門機関へ繋げ、共同研究・受託研究の形成を促進し、課題解決のサポートを行う。

センター利用者及び県内食品関連企業から寄せられた機能性食品開発、食品分析、臨床試験等に関する技術的相談に対し、新潟薬科大学研究者の紹介や専門機関との橋渡しをしました。

③センター利用者以外の食品企業等からの技術的相談に対する対応として、新潟薬科大学をはじめとする地域の大学や、（一財）日本食品分析センターなどの専門機関へ繋げ、共同研究・受託研究の形成を促進し、課題解決をサポート。

相談内容に応じて、新潟薬科大学研究者の紹介や、（一財）日本食品分析センター等専門機関との橋渡しを行い、分析・評価方法、研究実施可能性等について情報提供を実施しました。

また、健康ビジネス協議会やフードテック関連セミナー等を通じて構築したネットワークも活用し、共同研究や受託研究形成に向けた産学連携コーディネートを行い、企業課題の解決支援に努めました。

④新潟大学医歯学総合病院内の「ブルボン健康科学研究所オープンイノベーションセンター」内にも事務所機能を設置し、医学情報や専門家とのパイプを活用し、幅広く医療・健康・食品に関する企業の課題解決を支援。

コロナ禍以降、大学施設内への入館や対面活動に一定の制限が続いており、従来のような訪問型での活動は厳しい状況となっている。そのため、十分な活動が行いにくい状況が続いています。

⑤新潟薬科大学との包括連携のもと、専門分野の情報を活用し、センター利用のPR活動を実施。

新潟薬科大学との包括連携のもと、大学研究者とのネットワークや専門分野の情報を活用し、企業からの相談対応や研究者紹介を行いました。また、健康ビジネス協議会やフードテック関連セミナー等を通じて、新潟市バイオリサーチセンターの空室情報や研究支援機能のPRを行い、共同研究促進及びセンター利用促進に努めました。

⑥新潟市の健幸づくり応援食品認定制度の申請フォローや技術的相談について、新潟市農業活性化研究センターや当社顧問の専門家と協力して実施。

新潟市健幸づくり応援食品認定制度に関する周知活動として、各種講演会やセミナー等の機会を活用し、制度概要の紹介を行うとともに、5万円による機能性成分探索や機能性表示食品に関する文献リサーチ支援について、県内企業や業界団体等へ案内配布をしました。

しかしながら、制度活用に対する企業側の反応は限定的であり、相談があった場合でも、新潟市内に事業拠点が存在しない、あるいは使用素材が新潟市内産ではない等の理由により、制度申請には結び付かないケースも見受けられました。

⑦機能性食品評価事業を通じて、健康をテーマとした製品開発や食品安全の分野における支援を強化。

HMT（ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社）と連携し、自社単独では対応が難しい高度なメタボローム解析等の紹介や提案を行い、県内企業との契約支援につなげました。また、HMT社と共同でセミナーや見学会等を開催し、健康・機能性分野における最新技術や研究事例の普及啓発を行いました。加えて、県内食品事業者向けに「機能性成分及び文献リサーチ」（5万円）の案内を配布し、機能性表示食品や健康訴求型商品の開発を検討する企業に対する初期調査支援を実施しました。講演会や業界団体向けセミナー等を通じて制度周知や情報発信を行い、企業の健康食品分野への関心喚起に努めました。

これらの活動を通じて、食品企業、研究機関、分析機関等とのネットワーク強化を図るとともに、地域企業における健康をテーマとした製品開発や科学的エビデンス取得に向けた支援体制の充実に取り組みました。